令和２年度第７回 下関市環境審議会　議事録

　　　　　　　　　　日時：令和３年１月６日（水）１４：００～１５：３０

　　　　　　　　　　場所：川中公民館　４階　講堂

**１　開　会**

資料確認の後、本審議会が原則公開であることと傍聴要領の遵守及び議事録作成について説明を行った。

出席者：下関市環境審議会委員

国土交通省中国地方整備局（事業者）、下関市都市整備部（事業者）

下関市環境部

資　料：資料１、資料２、資料３、資料４

**２　議　事**

1. 下関北九州道路に係る計画段階環境配慮書について

ア　事務局説明（約１０分）

資料１、資料２より下関北九州道路計画段階環境配慮書に係る手続きについて説明

イ　事業者説明（約４０分）

資料３より下関北九州道路計画段階環境配慮書の概要について説明

**【主な質疑等】**

（１）下関北九州道路に係る計画段階環境配慮書について

ア、イ　資料１、資料２、資料３、資料４

Ａ委員

３つのルートの案に対して北九州市側には３つ終点の案があるが、下関側は１か所だが、これ以外は検討の余地がなかったということか。

事業者

下関側について地域で平成２９年度から「下関北九州道路調査検討会」を開いて検討する中で、一定の幹線道路に接続する観点から旧彦島有料道路に着地することが良いということと、将来的には山陰側や市街地、都心部を結ぶということが今回の下関北九州市道路の目標でもあるので、彦島迫町付近に設定した。

Ｂ委員

橋梁なのかトンネルなのか。また、どういう考え方でのこの３案に絞られたか。環境面以外に社会経済面をあらかじめ精査されてこういう計画になったのか。

CO2の排出量について、この計画によりどうなるのか。影響評価もCO2の発生について検討する必要はないのか。

事業者

構造に関して、北九州側に小倉東断層があり、トンネルだと全面的に影響がないかを海洋全体に渡って調査しないといけないので非常に時間もかかる。また、要するコスト、調査にかかる時間であったり不確実性等を踏まえると橋梁案で検討することが妥当であると「下関北九州道路計画検討会」で案をまとめた。

３つの案に絞った過程だが、政策目標については２県２市や経済関連の方、いろいろな方の意見を踏まえてまとめた。「暮らし」「産業・物流」「観光」「代替路」の機能をもつ道路を考えた際にどういうルートの案を設けることが適切か。「生活環境・自然環境・景観」「家屋への配慮」「施行中の影響」「経済性への配慮」こういった観点も踏まえながら３つの案をまとめた。

CO2に関する判断だが、詳細な交通量は、橋を通る交通だけではなく、周辺についても現段階ではまとめられていない。今後詳細な検討を進めるにあたって、必要に応じてそういったところも出てくる。

Ｃ委員

現段階で西山まではどういうルートを通るかを想定しているのか。旧彦島有料は片側一車線でその出口は現在かなり渋滞している状況である。

事業者

下関市側の接続箇所について旧彦島有料道路となるが、その後の接続後の状況については課題だと認識している。既設道路の整備方針については、現時点で定まったものはない。下関北九州道路の検討の進捗状況を見ながら、今後地域としても国、県、市と連携して検討を進める必要がある。

Ｃ委員

接続後の道路も環境アセスの対象になるのか。一体的に考える必要があるのではないか。

事業者

今回の配慮書の範囲は下関北九州道路の範囲のみである。

Ｄ委員

自然環境については書いてあるが、漁業については書いていない。漁業に対する影響力は大きい。

事業者

漁業という産業そのものはアセスの対象ではない。魚類については、配慮書では既存文献で位置が確定されたものをまとめている。今後、必要に応じて方法書、準備書、評価書では調査していく。

会長

関門海峡に橋が建つということになるわけだから、景観にも大変影響がある。

Ｅ委員

漁業だが、今回は直接の対象ではないが、早い段階から対応を考えていたほうが良い。

会長

漁業への影響についてはしっかり考えていただきたい。

アカウミガメの産卵地が彦島にある。この産卵地への影響というのは、直接道路が通るか通らないかよりむしろ、海岸に光があると来られなくなる。動物の生態に考慮した形で、ただ場所さえキープすればよいわけではない。

Ｅ委員

一般住民からの意見への回答であるが、専門家同士の対話だとこういった回答でよいが、住民に対してはリスクコミュニケーションを念頭に理解しやすいような説明が必要である。

水質に関しても方法書、準備書の中では必要な調査は詳しくしっかりやっていかなければいけないと思うので、資料もしっかりと充実させていただきたい。